

分野	52	水資源	通番 125
施策	522	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	低廉な水の安定供給事業		会計 款 項 目	—	水道総務課
			公営企業会計		
事業の概要					
地下水と府営水道の二元水源により安心して安全な水を安定供給するとともに、京都府と受水市町が連携し、効率的な水運用により低廉な水道料金での事業運営に努めます。					


令和元年度の実績							
D (取組)	指標	水道水における府営水ブレンド率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
	47.3(平成26年度)	実績	53.9	51.5	52.4	50.8	
<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して、府営水のブレンド率に配慮し、水の安定供給に努めました。 上下水道事業審議会の審議を踏まえ、令和2年度から10年間の上下水道ビジョン（経営戦略）を策定しました。 府営水の供給料金が令和2年度より改定されることから、上下水道事業審議会による答申、上下水道ビジョン（経営戦略）を踏まえ、水道料金を引き下げる水道給水条例の一部改正案を上程し、可決され、令和2年10月1日から水道料金の引き下げを行います。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の実績				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
			—	—
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 東第2浄水場において、長期間施設を停止するなどの工事はなく、年間を通してブレンド率に配慮した給水を行いました。その結果、ほぼ目標値に近いブレンド率となりました。 上下水道ビジョン（経営戦略）に、引き続き、安全・安心な水を安定供給するための具体的な取り組みをまとめました。 	
	課題等		<ul style="list-style-type: none"> 将来にわたり、地下水と府営水道の二元水源による水道水を供給するためには、地下水の適正な揚水量を守る必要があります。 今後、東第2浄水場の耐震補強工事等により浄水機能を停止するため、一時的に府営水道のブレンド率が高まる可能性があります。 	

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> 今後の水需要の推移を見ながら、引き続き、地下水の適正揚水量を守り、併せて府営水とのブレンド率50%を維持します。 府営水については、京都府と受水市町が連携し効率的な水運用を行っていきます。

分野	52	水資源	通番 126
施策	522	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	基幹管路の耐震化事業	会計	款	—	水道施設課
		項目			
公営企業会計					
事業の概要					
自然災害や経年劣化による基幹管路の損壊は市民生活への影響も大きく、復旧にも長時間を要します。自然災害等に負けない強靱な水道施設とするため、計画的に更新・耐震化を進めます。					


令和元年度の取組							
D (取組)	指標	上水道基幹管路耐震化率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	31.6(平成26年度)	目標	32.8	34.9	36.4	40.0	※令和元年度策定の経営戦略に基づく指標設定
		実績	32.5	33.0	33.7	34.1	
<ul style="list-style-type: none"> 水道事業中期経営計画後期計画(平成27～令和元年度)に基づき、耐用年数を経過した基幹管路の耐震化工事を天神3丁目他地内において実施しました。 					<耐震管への布設替状況> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和元年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・関係機関及び地元住民と調整を図り、工事を実施した結果、目標には及びませんが、一定の耐震化を進めることができました。	—
	課題等	・水道における漏水や他工事の影響により突発的に発生する工事と計画に基づく基幹管路の耐震化工事との調整を行い、リスクの軽減を図ることが必要となります。			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当 ・健全な財政を維持しながら水の安定供給を図るため、耐用年数に加え、路線の重要度等を総合的に判断し、優先順位をつけた上で効率的に基幹管路の耐震化を進めます。

分野	52	水資源	通番 127
施策	522	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	鉛製給水管の取替促進事業		会計 款 項 目	—	水道施設課
			公営企業会計		
事業の概要					
蛇口からの水質保全や漏水防止のため、既存の鉛製給水管の取り替えを順次進めます。					

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	鉛製給水管残存率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	14.3(平成26年度)	目標	12.2	10.0	8.0	6.0	※令和元年度策定の経営戦略に基づく指標設定
		実績	12.4	11.7	10.2	9.0	
・水道事業中期経営計画後期計画(平成27～令和元年度)に基づき、開田1丁目他地内における給水管取替工事、管路更新工事及び道路整備工事等を実施し、鉛製給水管の取替を進めました。工事を実施する上で、事前周知や対象者との調整等を行いました。					<鉛製給水管の取替状況> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和元年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・給水管取替工事、漏水に伴う取替、管路更新工事及び道路整備工事による鉛製給水管の取替を実施しましたが、近年、まとまって更新可能な地区の選定の難しさにより目標には及びませんでした。	—
	課題等	・事業進捗に伴い、まとまった地区での更新がほぼ完了し、近年では工事箇所が分散されることにより選定が難しくなっているのが現状です。確実に取替を進めていくためには、従来の考え方より見直しを図る必要があります。			

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	2: 進め方の改善の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> 対象路線を市内一円に拡大し、管路更新等と調整を図りながら選定します。 引き続き、広報紙等による啓発活動を行い、対象者及び近隣住民の理解と協力を得ながら取替を進めます。

分野	52	水資源	通番 128
施策	522	水の安定供給	
5年後の目標		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	多様な形態の広域化の検討事業	会計	款	—	水道総務課
		項目			
		公営企業会計			
事業の概要					
水需要の減少により水道料金収入は減少する一方、老朽施設の更新や耐震化など事業費用は増加する見込みとなっています。市水道事業単独での効率化にも限界があり、水道事業を継続して安定経営するため、水道施設の共同使用や経営の統合など広域化を検討します。					

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	新たに策定する上下水道ビジョン(令和2~11年)に多様な広域化の方向性を反映				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	乙訓上水道事業連絡協議会で多様な広域化について検討(平成26年度)	目標	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	新たに策定する上下水道ビジョンに多様な広域化の方向性を反映	—
		実績	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	新たに策定する上下水道ビジョンに多様な広域化の方向性を反映	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 京都府水道事業広域的連携等推進協議会(南部圏域)幹事会に参加しました。 ・ 京都府内の市町村水道事業連絡会にて、広域連携等に係る研究会の設置について協議を行いました。 ・ 上下水道事業審議会の審議を踏まえ、広域的な連携に向けて、今後取り組むべき内容を記載した上下水道ビジョン(経営戦略)を策定しました。 						

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・ 新たな上下水道ビジョン(経営戦略)に、多様な形態の広域化の検討として、令和2年度以降に取り組むべき内容を反映することができました。
	課題等	・ 事業規模や料金体系の違いなど、事業全体での広域化には多くの課題があります。		

目標達成に向けての次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1: 計画通りに進めることが適当</td> <td>・ できるところから広域化に向けた取り組みに検討していくことが必要です。京都府及び府営水受水市町での広域的な連携だけでなく、京都府下市町村(南部圏域)、あるいは隣接する市町との連携も併せて検討します。</td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1: 計画通りに進めることが適当	・ できるところから広域化に向けた取り組みに検討していくことが必要です。京都府及び府営水受水市町での広域的な連携だけでなく、京都府下市町村(南部圏域)、あるいは隣接する市町との連携も併せて検討します。
方向性	対応策等				
1: 計画通りに進めることが適当	・ できるところから広域化に向けた取り組みに検討していくことが必要です。京都府及び府営水受水市町での広域的な連携だけでなく、京都府下市町村(南部圏域)、あるいは隣接する市町との連携も併せて検討します。				